

1 学校運営協議会制度説明(三上浩永 副校長)

- ・規約について

第2条 趣旨について 第4条 学校運営に関する基本的な方針の承認について

第5条 学校運営等に関する意見の申し出について 第6条 学校運営等に関する評価について

第8条 委員の任命について 第11条 会長及び副会長について

第12条 会議について 第15条 守秘義務等について

- ・<事務連絡>地域創造学オープニングセレモニーでの応援コメントのお願いについて

2 学校運営協議会

(1) 開会のことば(千葉修悦 同窓会長)

(2) 会長あいさつ(奈良朋彦 副会長)

教育委員会として令和元年度から、自学自習支援を皮切りに住田高校と地域をつなぐ活動をしてきた。令和3年に住田高校魅力化構想ができ、これをもとに学校・地域・行政が連携し生徒たちのチャレンジに伴走してきた。おかげさまで、高校生たちが地域に飛び出してようやく地域のなじみができたと実感している。地域が高校生育てていくという流れが徐々に浸透してきているので、この会でも、地域、学校、行政という視点でいかに生徒たちを応援できるかについて議論したい。

(3) 校長あいさつ(伊藤治子 校長)

本日は令和7年度第1回学校勉強会ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、重ねて今年度の委員にご快諾頂きましたこと本当に感謝しております。皆様方一人ひとりが、この学校の最強の応援団だというふうに思っております。いろいろな困りごとあった場合にはぜひ相談させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。昨年度は一人ひとりが共に生きる大切な存在であるということ意識し、校訓の「共生」を第一ゴールに生徒たちと一緒に走ってまいりました。今年度、学校運営の中で一番大事にしたいことは、この共生からさらに一歩進んだ校訓の二番目にある「創造」です。これを第一ゴールにしながら進めてまいりたいと、子どもたちとも共通の理解を図っています。本日は本校学校運営協議会で初めて生徒が参加し、生徒の声を直接届けたいと思っております。我々大人はどうしても大人の視点で物事を考えることが多いですが、直接、子どもたちの声を聞きながら会を進められればありがたいと思っております。ぜひ生徒の声に耳を傾けていただきながら、これからの学校の発展にご尽力いただくと大変ありがたいと思っております。まずもって挨拶にかえさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(4) 自己紹介

(5) 報告

ア 令和6年度住田高校魅力化事業について(三上浩永 副校長)

- ・第28回海外派遣事業(第1回住田町中学生・住田高校海外派遣事業)について

アメリカ西海岸サンディエゴ方面へ9日間の派遣。今年度も継続。

- ・文部科学省研究開発学校指定 最終年次 学校公開研究会について

町独自教科「地域創造学」の学びを多くの方に参観いただきフィードバックが得られた。

・学校魅力化事業について

魅力化サポーター奈良朋彦様と3名の教育コーディネーターによる活動と、住田町初となる市議会議員と高校生による意見交換会「すみたあつもりミーティング」、地域創造学での学びを京都大学時計台記念館で発表した「国際文化政策研究交流集会」、「警察官人形の補修」等

・進路指導補助事業「スタディサプリ」の活用

(6) 協議

ア 令和7年度学校経営方針ならびに経営計画について（伊藤治子 校長）

- ・今年度は校訓「創造」を第一とする。コンセプトは、「自分イノベーション」を目指し、自分自身の周りから様々なイノベーション起こしていきたい。
- ・カリキュラムポリシーでは、昨年度までの教科「地域創造学」から、今年度は総合的な探究の時間として実施。1年生1単位、2年生が2単位、3年生が1単位で金曜日の午後実施し、街に飛び出しながら自分のアクションを進めていけるような時間を設定。教職員に向けては、地域と連携しながら対話的協同的な授業展開となるようすべての教科でお願いしている。
- ・アドミッションポリシーでは「過去の自分にとらわれず」であった部分を「今の自分を大切にしながら」とより前向きな言葉に変更。
- ・目指す学校像では、重点目標達成指標を昨年度までよりも少し高い数値で立てている。
- ・具体的な取組方針として、探究的な学びの実現に向けた基礎学力向上および授業力向上において、AI教材等も活用しながら個別最適な学びを進めていく。
- ・4月15日DXハイスクールの新規採択校となった。今後、連携しながら整備を進めていく。皆様方からもぜひご意見いただきたい。町内の保育園、小学校、中学校とDX推進を連携しながら進めてまいりたい
- ・今年度2人の新しい教育コーディネーターさんを迎えた。3名体制というのは本当に県内でも珍しいところなので、教育コーディネーターさん、そして魅力化協働パートナーの皆様と連携しながら、子どもたちの居場所づくり、絆作りをさらに強化したい。
- ・今年度、いわての復興スクールにも指定されている。昨年度、阿部重人先生に防災授業のところで、生徒が作る防災授業のご指導をいただいた。本年もさらに推進したい。
- ・今年度、岩手県教育委員会より高校魅力化推進重点校の指定を受けた。さらに魅力化について進めていく。

<質問>

(紺野勝利 住田町社会福祉協議会事務局長) 今年度のDXハイスクールそれから高校魅力化推進重点校、いわての復興スクール指定は、学校としてどのようなメリットがあるのか教えて欲しい。

(伊藤治子 校長) DXハイスクールは国から1,000万の予算がついている。活用としてはAIであるとかBYODとか。今考えているのは、電話が今、電話線が切れそうな状態なので、担当者と私はスターリンクをここに引いたら最高の環境で使えるかと思う。Wi-Fi環境、それからICT環境であるとかを整備し、子どもたちの学べる環境を整えていくということ、それから、例えば不登校生徒や釜石から通ってる子で電車が運休のため学校に来られない生徒たちに対してオンライン授業に参加させているが、学校側のWi-Fi環境が良くないために回線が不安定になりがちである。防災復興スクールにもちょっと絡めつつ、実際に災害が起きたと

きにも寸断されない情報環境がこの学校で作ればよい。いわての復興スクールに関しては、被災地の訪問であるとか学校の中の防災体制の強化ということで、小学校、中学校と連携しながらこの町の防災というのを考えていく。

(田代高章 岩手大学教育学部教授) せっかくの指定なのだから、学校間での協働学習、交流学习、住田町外の学校との交流を実施していただけるといい。オンラインとか遠隔等で地域創造学の発表やサポートでの交流をぜひ実現していただきたい。こちらバックアップができますので、様々な方法で繋がれることも視野を広げることになる。小規模校であることが活かせると思う。

イ その他(金野結花 生徒代表)

入学して2年目に入り、こういう学校だったらいいなっていうところを話します。この学校は個人的にもすごく楽しく過ごせていて、先生方もコーディネーターさんにも良くしてもらっています。小規模校であることも個人的にもすごくいいところだなと思っているだけに、ここの魅力がもっと他の人の目にとまって欲しいという思いが大きくなっています。そこでどうやったら人を増やせるのかなとか、そういったところを話すときに、学校の内側も大事ですけどそこに惹かれてくる人は少ないと思っています。だからその学校の外観だとか、水回りからしっかりした方がいいのではないかとということで、屋根の塗り替えだとか生徒用トイレの洋式化とかをしっかりとの方がいいと思っています。現時点で結構故障したトイレがあって、昨年度も多い時で2階女子トイレが4~5個位故障中になっていたりしていたので、その時はちょっと不便に感じました。また、現在午後5時になると水道が全部止まります。部活動で午後6時半まで残る生徒からしたらとても不便。生徒のトイレが今本校には3つあって、体育館と1階のトイレと2階のトイレがあって、そのうち洋式の数是一片手で数えるぐらいです。本当に少なくて、今の時代に合っていないっていうのもちょっとあったりすると思うので、トイレの洋式化と屋根の塗り替えをお願いしたい。昨年度、今は直っていますが、2階のトイレ前廊下の天井でいろいろトラブルが起きて、そこを一時的に修理したということがありました。いっそのこと塗り替えたり強化したりした方が、今後そういうところにお金もしばらく割かなくても良くなるので、力を入れてやって行ったほうが今の中学生からの印象とかも良くなると思います。是非、屋根の塗り替えとトイレの洋式化について進めてもらえたらなって思っています。

(岡澤明美 事務長) 現状については十分に把握しており、生徒さん達にはご不便をかけている。工事の方も進めることになってはいるものの、実際に工事に入るのは今年度下旬ごろからになる。屋根についても県に毎年予算請求しているが、なかなか予算化してもらえていない。

(伊藤治子 校長) なかなか内部からだど苦しいので、こういう方法もあるなど皆様のお力を借りしたい。企画財政課の方にも私から陳情に伺ったりするが、県のお金はなかなか動かない。ただ毎日がまさに防災スクールになっていて、本当に生徒もよくこの状況の中でこの冬を乗り越え、そこでまさに防災復興スクールという感じである。少しでも子どもたちの生活が改善できると、さらに彼らが頑張れるのかなと思うので、ぜひ皆さんのお声を上げていただければありがたいなという思いでいる。

(藤井洋治 ふるさと創生大学運営委員) 「大人の声」は県教育委員会の方で常に届いていると思うが、おそらく同じ頃にできた高校では、日本中の高校で相当数同じような状況になっているはず。限られた県の予算でどうしていったらいいかは非常に難しいと思う。ただ、毎日使ってる生徒たちが何とかしてほしいといった声を「生徒たちの声」として伝える手段として、新聞等で最近よく小中高の子ども達の声って結構出ているので、生徒たちの直接の声を伝えると良いのではないかな。そういう中から、他の方もなんとかしなければとなれば。余談ですが私立高校がどんどん綺麗になっている。それが公立と比べられてこれからどんどん問題になっていくのではないかなと感じる。

(千葉修悦 同窓会長) 地域みらい留学では、様々な高校を見た中で住田高校を選んだという声がありました。

この件について今回集まった委員の方々にもお伝えすることによって、住田の魅力をわかってもらえるのではと思うのでお話ししてもらいたい。

(小向はるか 教育コーディネーター) 数ある高校の中から住高を選ばれた生徒さんに対応していて、一番大きな声として挙がってきたのは住高のアットホームさです。住田を訪れたときに皆さんが温かく迎えてくれて、それが忘れられなくて何校か見学したけれど、やっぱり住田に戻ってきましたと言ってくれる生徒さんがいた。住田高校に来ると、いろいろな人たちが関わってくれるのだなという印象を受けたことにも魅力を感じましたという生徒の声も挙がっていた。

(三上浩永 副校長) 資料集に入学した2期生についての東海新報記事があるので参考にしてもらいたい。田舎の風景や交通の不便さが都会では魅力的に映るなど価値観の違いもある。中学校で進路を決めて他県に来るといのはかなり勇気のいることでその決断もかなりのものだと思う。そうして来てくれていることが住田の持つ魅力ではないか。

(7) 意見交換・質疑応答

(宮城好郎 岩手県立大学名誉教授) 2点質問あり。

質問① 金野さんがこの場に今回参加されたことは大変素晴らしいと思う。この協議会でどんな話をしていたのかということ、生徒さんたちにどのような形でフィードバックされる予定か。

⇒ (金野結花 生徒代表) 5月中旬に生徒総会があるので、そこでお話ししたい。

質問② アメリカへの海外研修を非常に少ない派遣人数で実施するに、どういう目的でアメリカに行き、成果をどのように住田高校にフィードバックしているのか。

⇒ (三上浩永 副校長) 昨年度から中高合同でのアメリカ派遣として実施。住田高校の第1回海外派遣もアメリカであった。経費が高騰しており少人数での参加となっているが、年度内に3回ほど報告する機会があるため、ここで生徒や住田町教育振興会の方々へフィードバックしている。

(8) その他

(千葉修悦 同窓会長) ・アカデミアによる記事の紹介、ふるさと創生大学イベントの案内など

(9) 閉会のことば (千葉修悦 同窓会長)